



2024年12月16日

2024年度 小・中学生

# 「いのち」の作文コンクール **受賞作品が 決定しました!!**

公益財団法人JR西日本あんしん社会財団では、将来を担う子どもたちに、作文を書くことを通じて「いのち」の大切さを考えていただくとともに、優秀な作品を広く周知し、「いのち」を大切にできる安全で安心できる社会づくりにつなげるため、本コンクールを、近畿2府4県の小・中学生を対象に開催しております。6回目となる今回は4,541名の方からご応募いただきました。

今回は、大切な人やペットなどのいのちに関する作品が多いことに加え、日々の何気ない会話を通じて感じた生きることの楽しさなどに触れた作品も増え、小・中学生の皆さまが感じる様々ないのちに出会うことができました。

選考の結果、以下のとおり各賞の受賞作品が決定しましたので、お知らせいたします。

## 1. 各賞と受賞者

- ・いのちの作文大賞（4名）
  - ・優秀賞・選考委員特別賞（6名）
  - ・優秀賞（20名）
  - ・入選（70名）
- ※受賞者一覧は、「別紙1」をご覧ください。

## 2. 受賞作品

- ・「いのちの作文大賞」受賞作品本文は、「別紙2」をご覧ください。
- ・「優秀賞・選考委員特別賞」、「優秀賞」の作品本文については、後日当財団ホームページにて掲載いたします。

## 3. 表彰式

「いのちの作文大賞」、「優秀賞・選考委員特別賞」、「優秀賞」の受賞者を対象に、1月26日（日）に表彰式を開催します。詳細は「別紙3」をご覧ください。

## 4. その他

詳しくはJR西日本あんしん社会財団のホームページをご覧ください。

<https://www.jrw-relief-f.or.jp/seminar/sakubun2024/>



### 【参考：本コンクール概要】

◎テーマ：あなたにとっての「いのち」

身近な体験、本やテレビ・インターネットなどを通じて、感じたり考えたりした「いのち」や、自然とのふれあい、最新の科学技術から感じた「いのち」など幅広い観点からの作品を募集。

◎募集対象：近畿2府4県（滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県）に在住・在学の小・中学生

◎主催：公益財団法人JR西日本あんしん社会財団 ◎協力：西日本旅客鉄道株式会社

◎後援：滋賀県教育委員会、京都府教育委員会、京都市教育委員会、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、堺市教育委員会、兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、奈良県教育委員会、和歌山県教育委員会、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、産経新聞社、神戸新聞社、京都新聞、週刊大阪日日新聞社、日本教育新聞社、京都大学人と社会の未来研究院、大阪大学社会ソリューションイニシアティブ、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会



## 受賞者一覧 (敬称略)

※ご応募いただいた当時の府県名、学校名を記載しております。

## ☆いのちの作文大賞 (4名)

府 県	学 校 名	学 年	氏 名	題 名
滋賀県	野洲市立野洲小学校	2	上田 麻祐子	いろいろないのち
大阪府	大阪市立春日出小学校	4	森 治己	オナガミズアオ飼育記
滋賀県	栗東市立葉山東小学校	6	大田 爽月	父のユニホーム
兵庫県	加古川市立氷丘中学校	2	宮崎 純大	母のお腹、妹の声

## ☆優秀賞・選考委員特別賞 (6名)

府 県	学 校 名	学 年	氏 名	題 名
兵庫県	姫路市立白浜小学校	1	福井 達央	ぼくのおとうと
和歌山県	私立智辯学園和歌山小学校	2	脇島田 乙希	わたしのお母さん
兵庫県	たつの市立神部小学校	6	武内 誠	命について考えた日
滋賀県	彦根市立中央中学校	1	山本 蒼依	私が生きる理由
京都府	京都市立加茂川中学校	2	杉 いおり	あなたがいた時間
滋賀県	守山市立守山北中学校	2	横山 翔大	ツバメの命

## ☆優秀賞 (20名)

府 県	学 校 名	学 年	氏 名	題 名
兵庫県	姫路市立峰相小学校	1	片岡 奏詩	ぼくのアレルギーとかぞく
大阪府	大阪教育大学附属天王寺小学校	1	村山 優日	いのちとはなんだろう
兵庫県	姫路市立安室小学校	2	近藤 羽夏	虫のいのち
大阪府	東大阪市立孔舎衛東小学校	3	生田 大悟	ぼくのこと
兵庫県	姫路市立旭陽小学校	3	鶴飼 一有	正宗の命
和歌山県	私立智辯学園和歌山小学校	3	津村 悠登	じいじのせ中
兵庫県	太子町立太田小学校	4	猶原 未結	じいちゃんとひまわり
和歌山県	私立智辯学園和歌山小学校	5	有田 結衣香	感謝の「いただきます」
京都府	京都教育大学附属京都小中学校	5	古株 陽茉莉	今年も出てきてくれてありがとう
兵庫県	小野市立河合小学校	6	時宗 八朗太	ひいおばあちゃんの死
兵庫県	私立滝川第二中学校	1	占部 由大	命の選択
京都府	京都市立上京中学校	1	岡田 結衣	つながれる植物の生命
兵庫県	兵庫県立大学附属中学校	1	奥田 絢斗	いのちのスープ
兵庫県	神戸市立岩岡中学校	1	デーヴィス 恵莉	「いのち」について
兵庫県	神戸市立大沢中学校	1	福井 近良	ピィピィ、長生きしてね
滋賀県	大津市立仰木中学校	2	池野 椋音	巡る命
滋賀県	草津市立高穂中学校	2	伊藤 伸	母が元気になったら聞きたい質問
京都府	京都市立二条中学校	2	檜尾 宗之介	語り継ぐ命
滋賀県	彦根市立中央中学校	3	浅野 はな	命をいただくということ
大阪府	大阪市立住吉第一中学校	3	谷元 絢音	自分の考える命の大切さ

☆入選（70名）

府 県	学 校 名	学 年	氏 名	題 名
兵庫県	神戸市立春日台小学校	1	太田 咲南	いのちのおと
兵庫県	神戸市立こうべ小学校	1	関 優斗	小さいいのちの大きな力
兵庫県	姫路市立手柄小学校	1	中川 愛絆	わたしのいのち
大阪府	堺市立北八下小学校	2	眞鍋 亜美	生きているだけで
和歌山県	私立智辯学園和歌山小学校	2	谷坂 しえり	言葉でこわれる命
京都府	私立立命館小学校	2	杉本 青芭	つながるいのち
兵庫県	姫路市立旭陽小学校	2	苦瓜 海	ぼくの大せつないのち
大阪府	茨木市立茨木小学校	3	永安寺 悠	平和ってなんだろう
大阪府	岸和田市立八木小学校	3	樋口 日佐人	ぼくにとっての「いのち」
京都府	京都市立下鴨小学校	3	河野 鈴	みまもっていてねきぼちゃん
兵庫県	神戸市立塩屋北小学校	3	中川 紗愛	わたしとお母さんのたからもの
大阪府	東大阪市立孔舎衛東小学校	3	野口 真桜	命について
兵庫県	市川町立瀬加小学校	4	中塚 咲都	やさしさのバトン
奈良県	私立近畿大学附属小学校	4	酒井 麻衣	毎日の幸せ
和歌山県	私立智辯学園和歌山小学校	4	神埜 明奈	たく山の命にありがとう
和歌山県	私立智辯学園和歌山小学校	4	根来 果歩	死ぬときってどんな感じ？
京都府	私立立命館小学校	4	猪股 愛	母が命の絵をかいた
兵庫県	姫路市立安室小学校	4	高田 康介	つながっていくいのち
兵庫県	神戸市立鹿の子台小学校	5	西元 悠人	「生きる」とは
兵庫県	神戸市立神の谷小学校	5	直原 惺南	オカメインコのがっちゃん
大阪府	堺市立津久野小学校	5	森 祈里	わたしにとっての、いのち
大阪府	東大阪市立英田北小学校	5	渡邊 豪	幸せな最期とは
兵庫県	姫路市立安室小学校	5	石田 響一	戦争と命
兵庫県	姫路市立安室小学校	5	相馬 美沙希	当たり前ではない命
大阪府	大阪市立中之島小学校	6	加賀谷 空	当たり前ではない今日を生きていく
兵庫県	加古川市立平岡小学校	6	井上 宙奈	命の時間
京都府	京都教育大学附属京都小中学校	6	宮本 百	一人の小さな声も集まれば大きな声に
大阪府	堺市立庭代台小学校	6	河合 柊果	「死にたい」という気持ち
兵庫県	姫路市立広畑第二小学校	6	柴田 葉乃	いろいろな命
京都府	舞鶴市立中筋小学校	6	川角 星愛	死してもなお生き続ける
和歌山県	岩出市立岩出中学校	1	千本 七海	祖父との別れで学んだこと
滋賀県	大津市立仰木中学校	1	竹中 颯花	命
兵庫県	小野市立小野南中学校	1	小林 茉尋	命はあたりまえじゃない
大阪府	門真市立門真はすはな中学校	1	藤本 旋汰	何気ない日常の楽しさ
京都府	京都市立開晴小中学校	7	橋詰 仁心	当たり前の日常

府 県	学 校 名	学 年	氏 名	題 名
兵庫県	神戸市立盲学校	1	北口 緋希	家族の笑顔
兵庫県	私立関西学院中学部	1	高瀬 桂	大好きな祖父
兵庫県	私立滝川第二中学校	1	吉田 香里菜	ありがとう
兵庫県	私立滝川中学校	1	深澤 宥輔	思い出の味
大阪府	私立桃山学院中学校	1	土本 杏椰	「意識」と「行動」
滋賀県	高島市立安曇川中学校	1	青木 陽真	「生きる」ということ
滋賀県	彦根市立西中学校	1	中嶋 元人	かけがえのないいのち
京都府	八幡市立男山東中学校	1	後藤 亜実	命の誕生は奇跡の瞬間
京都府	大山崎町立大山崎中学校	2	山田 沙也香	私にとって「いのち」とは
兵庫県	小野市立小野南中学校	2	奥野 日和	一つの命だけでも
京都府	京都市立音羽中学校	2	安島 依空	生まれてきた意味
兵庫県	神戸市立神陵台中学校	2	上野 柚音	三十分
兵庫県	神戸市立本庄中学校	2	森井 陽太	曾祖母がつないだ命
兵庫県	神戸市立盲学校	2	本木 陽菜	かけがえのない光
滋賀県	私立近江兄弟社中学校	2	勝瀬 咲織	ヤギのいのちのあたたかさ
兵庫県	私立神戸学院大学附属中学校	2	奥谷 翔太	「生きる」命
兵庫県	たつの市立新宮中学校	2	上田 樹	心といのち
兵庫県	播磨町立播磨南中学校	2	田中 琉稀	命は回っている
滋賀県	東近江市立五個荘中学校	2	甲斐 萌愛	すぐれた能力と心の支え
兵庫県	兵庫県立大学附属中学校	2	白井 志歩里	「生きる」ということ
兵庫県	尼崎市立中央中学校	3	坂本 輝	いのち
兵庫県	尼崎市立中央中学校	3	谷口 陽南	生きる
兵庫県	尼崎市立中央中学校	3	當眞 瑠生	僕の家族
和歌山県	岩出市立岩出中学校	3	土橋 來夢	命の重さ
大阪府	大阪市立住吉第一中学校	3	岡本 真生子	ありがとう
滋賀県	大津市立仰木中学校	3	小松 紗幸	人が生み出した「命」
滋賀県	大津市立仰木中学校	3	中川 芽生	いのちをみがく
滋賀県	大津市立日吉中学校	3	早瀬 ことみ	言葉と命
京都府	京都市立音羽中学校	3	中山 心咲	灯り続ける
京都府	京都市立下鴨中学校	3	黒岩 環	あたたかい毛布のように
兵庫県	神戸市立有馬中学校	3	松本 樹	いのちへの感謝
兵庫県	神戸市立高倉中学校	3	藤井 茜	大切な命
滋賀県	滋賀県立守山養護学校	3	辻崎 月琉	入院生活を通して感じたこと
兵庫県	姫路市立大白書中学校	3	福本 光起	つながれた僕のいのち
滋賀県	野洲市立野洲中学校	3	三輪 空宙	今を生きる

## いろいろないのち

野洲市立野洲小学校 二年 上田 麻祐子

夏休みになって、家族と近くのお祭りへ行った。私と弟は金魚すくいをした。一ぴきもすくえなかったが、店のおじさんが一ぴきずつくれた。家に帰り、お父さんにバケツと水を用意してもらった。弟はお父さんに、「明日、いっしょにブクブクを買いに行こう。」と約束していた。でも、次の朝、起きてバケツをのぞきこむと、弟の金魚は固くなってういていた。弟は、すごく泣いていた。でも私は弟の金魚だったので、あまり悲しくなかった。むしろ、私の金魚が生きていてよかったと思った。それより、死んだ金魚がこわかったので、弟に「早くほかして」と言った。弟はさらに泣いた。それから三日ほどたって、私の金魚もフラフラと泳ぐようになってエサも食べなくなった。もうすぐ、この金魚も死ぬのかと思うと急に悲しくなった。次の日、私の金魚も死んだ。やっと弟の気持ちがわかった。その日の夜、お父さんがかいてんずしにつれていってくれた。どのおすしもおいしかったが、サーモンが一番おいしかった。でも、サーモンをとりすぎて残してしまった。お母さんに、「サーモンも金魚と同じで生きていたんだよ。」と言われ、わすれていた金魚のことを思い出した。少しいやな気持ちになった。金魚もサーモンも同じ魚なのに、死んだとき、あまり悲しくないときもあれば、すごく悲しいときもあるし、何も思わないときもある。同じいのちなのに、なぜだかわからない。ただ、私が残したサーモンも家族がいて、悲しんでくれるだけかがいたのかなと思うと、何だか悪いことをした気持ちになった。いのちがなくなったときのかんじ方は、いろいろだからこそ、どのいのちも大じにしないといけないなと思った。

でも、やっぱりサーモンがすき。これからは、食べられる分だけお皿をとろうと思う。

# オナガミズアオ飼育記

大阪市立春日出小学校 四年 森 治己

ぼくのしゅみは昆虫の採集、飼育、標本作りです。6月のある日、昆虫採集に山の湿原に行ったとき体長5mmほどのオナガミズアオの幼虫を見つけました。オナガミズアオは前翅長1.2cmにもなる大きな蛾で、その翅は美しい水色をしています。ぼくは飼育しようと思い、何匹か持ち帰りました。

幼虫が食べる植物は湿原などにしか生えないハンノキの葉でぼくの住む地いきには生えていません。幼虫はとても大食漢です。たくさん食べて、すぐに体長5cmほどになりました。ぼくは毎回採集に行ったとき、えさとなるハンノキを持ち帰っていました。

ある日、学校から帰り水そうをのぞくとハンノキがなくなっていました。幼虫はもぞもぞと動き回りえさを探しています。すぐに食べさせないと死んでしまうかもしれない。ぼくはお母さんにたのんで車でつかまえた山につれていってもらいました。幼虫3匹もいっしょです。その車はまるできゆう急車のようでした。山につくと、いそいでハンノキをケースに入れました。幼虫たちは元気にもぐもぐ食べ始めたのでぼくはほっとしました。

それからしばらくして2匹がまゆになりました。のこりの1匹はまだ小さくえさを食べ続けていました。まゆになるまであともう少しのところ、保ぞんしていたハンノキが全てなくなってしまいました。その日から岡山県に昆虫採集に行くことになっていたので、また幼虫もいっしょに車でつれていくことにしました。どこかにハンノキがないか探していると、ようやくオナガミズアオの食草であるヤシヤブシを見つけました。食べてくれるか心配でしたが、次の朝ケースを見ると、まゆになっていました。

8月に入ったある日、水そうをのぞくと水色の大きな蛾が出てきていました。とてもきれいなオスでした。それから数日後、のこりの2匹も羽化しました。オスとメスでした。成虫は口がなく、えさを食べることができません。あれだけえさをとるのに苦ろうしたのに成虫になるとえさを食べず、1週間ほどで死んでしまうのです。ぼくは生き物たちが子そんをのこし、命をつなぐために生まれてきたのだなと深く感じました。

オナガミズアオは死んでしまいましたが、水そうの中には、たまごがありました。ぶじ生まれるかはわかりませんが、生まれたらまたハンノキをとりこうと思います。

# 父のユニホーム

栗東市立葉山東小学校 六年 大田 爽月

私には父との思い出がありません。

父は私が二才の時、交通事故で亡くなりました。夏休みがはじまってすぐの早朝、音がひびくような大雨の日でした。我が家は夏休みが始まると、毎年お参りの人が来てくれ、父の写真の前はお供えでいっぱいです。父のユニホームがかざられた部屋で父の活やくをみんなで話しているのが不思議でした。そんな野球の話ばかりの我が家で育った私はいつのまにか野球のルールを覚え野球観戦が大好きで、高校野球のマネージャーになるのが夢の一つです。この夏も兄の野球部の応援に行きました。その時、何人かのおじさんが近づいて来て、母はその方達と話して号泣したのです。不思議に思っておじさん達の顔を見ると、おじさん達は目になみだを浮かべていました。兄が高校で野球をがんばっていると聞き、父の分まで応援したいと、みんなに来てくれました。おじさん達は試合が終わると「お父さんはすごいピッチャーやったんやで。」お兄ちゃん、強<sup>ごう</sup>こう校でようがんばつとるな！ーえらいもんや！！来年は甲子園一緒に行こな！」となみだを流していました。野球場の帰り道、母が父と兄の思い出を話してくれました。兄は父が亡くなってすぐは、ボールもさわれず、父のユニホームを見ては泣いていたそうです。そんな兄を見ておじさん達は変わるがわる兄とキャッチボールしに家に来てくれ、兄は野球を続けることができたそうです。兄は辛いことがあれば、父のユニホームを見ていたのを思い出しました。兄は体が小さく、高校野球でレギュラーになるのがむずかしいと言われながらも、手にいっぱいの子供を作ったがなっています。父との思い出があるからこそ、くるしんだ兄。今も父とのキャッチボールを続けているんだと思います。そんなすてきな父と兄だから、おじさん達はずっとずっと応援してく

れているのだと思います。家に帰って見た父のユニホームはどんなユニホームよりかっこいいと思いました。父のユニホームの前で母と手を合わせていると、父が横にしているような気がしました。

当たり前の毎日なんてないのです。一番大切なのは、今日一日を大切に生きること。そして、この命に感謝することです。父が生きられなかった今日を、私はたくさんの人に支えられて生きています。どの命にもたくさんの愛情と優しさがあふれ、人は支え合っていることを学びました。父が私に残してくれた物は、思い出以上に大切な宝物でした。

「パパ、見ていますか？そよぎはさみしくありません。たくさんの方がパパの分まで、愛情をくれます。それは、パパが生きていた時に、たくさん愛情をみんなにあげたからだと思います。私もいつか、人に「ありがとう」と言われる看護師になって命の大切さをつないでいきます。ずっとずっと見守っていてね。そよぎはパパが大好きです。」

# 母のお腹、妹の声

加古川市立氷丘中学校 二年 宮崎 純大

僕の妹は、いま三歳。

三年前、僕は小学生。大きくなる母のお腹を、不思議な気持ちで見っていた。

お腹の中に命がある。女の人は、お腹に命を宿すことができる。僕自身の命をふくめ、人間の生命がそうやって続いてきたことを知ってはいるけれど、母の大きなお腹は毎日僕に、命そのものの存在を語りかけた。はっきりと。しっかりと。

妹が母のお腹を続けて何度か蹴ったとき、僕は母のお腹に手を置いた。ちいさなちいさな振動が手のひら全体に伝わった。そのときはやく妹に会いたいと思った。父も一緒にいて、笑っているのか泣いているのか、その半々の表情をしていた。

妹が生まれた日、僕は祖父母の家で知らせを待っていた。コロナ禍の真っ只中にあつたときで、母について病院へ行けるのは父ひとりだけだった。

出産は命がけの行為であることを、父から聞いていた。もし母になにかあつたら、と考えたが、すぐにそれを打ち消すようにした。

出産予定日をかなり過ぎていたので、母は病院と相談をし、出産の日を決めた。その前日の夜、お風呂から上がってゆっくりしていた母の横に行き、妹はいまお腹の中で何をしているのだろう、眠っているのかなと思いつつ、僕は黙っていた。母と話そうとしたけれど、言葉は出てこなかった。

母は僕の頭にゆっくりと手を置いて、おやすみと言った。僕もおやすみとだけ言い、自分の部屋へ戻った。布団に入り、目をつむった後、母の顔を見ておやすみと言えばよかったと思った。

「生まれたで。元気な赤ちゃん」

父から祖父に電話があつたのは、夕方頃だった。祖父は、何度もよかったよかつ

たと言つて泣いた。僕は、涙は出なかつたけれど、心の底から安心した。コロナウイルスに関わる暗いニュースばかりのなかで、胸の中が光で明るくなった。その光は、今まで見たことのない色をしていた。はやく母と妹の元気な顔が見たいと思つた。

母が退院をする日。父と病院の受付で待っていた。座ってはいられなかつた。

看護師の人と一緒に、母が降りてきた。大切に妹を抱いて。妹は目をつむっていた。

「抱っこしてみる？」

母の言葉に、僕は腕を伸ばした。

想像していたよりもずっと軽くて、小さくて。命が誕生したのだと思つた。

家に帰って、父が僕と妹の写真を撮つた。

僕が抱っこをすると、妹は泣いた。大きな声で、顔をくしゃくしゃにして。その顔と声から、僕は生命力というものを感じた。それはとても力強く、たくましかった。小さな体なのに、はっきりとした妹の泣き顔と泣き声。

僕は、自然と笑みがこぼれた。これまで経験したことのない、優しい気持ちがあふれてきた。

父が撮つた写真を見て、僕は自分の表情に驚いた。自分から見ても、いい顔。とても穏やかに笑っていたからだ。

僕の笑顔と、妹の泣き顔。写ってはいないけれど、見守る父と母。家族四人のいのちがつまつた、一枚の写真ができた。

僕はぺたんこになった母のお腹を見た。

「お兄ちゃん」

そう笑いながら、母は僕に言った。ちいさな命が、すぐ目の前にあつた。

妹が泣いて、僕は兄になった。

# 表彰式について

## 1. 開催日時

2025年1月26日（日）14:00～15:45

## 2. 会場

新大阪ワシントンホテルプラザ 2階「ルミエール」

JR新大阪駅から徒歩5分、地下鉄新大阪駅から徒歩5分

## 3. 内容

- ・主催者あいさつ
- ・表彰
  - いのちの作文大賞（4名） ※「いのちの作文大賞」受賞者コメントあり
  - 優秀賞・選考委員特別賞（6名）
  - 優秀賞（20名）
- ・講評・講話（選考委員代表 重松 清 氏）

## 4. 出席者

### ①受賞者

「いのちの作文大賞」「優秀賞・選考委員特別賞」「優秀賞」受賞者ならびに保護者・学校関係者

### ②選考委員（五十音順）

#### ・菊池 省三 氏（教育実践研究者）

1959年生まれ、愛媛県出身。

小学校教師として、現代の学校現場に即した独自の実践によりコミュニケーション力あふれる教育をめざしてきた。

教員同士の学びの場「菊池道場」を主宰（支部は全国40か所）。

2012年『プロフェッショナル 仕事の流儀』で取り上げられ反響を呼ぶ。

テレビ東京「たけしのニッポンのミカタ」、日本テレビ「NEWS ZERO」「世界一受けたい授業」

などにも出演。

2015年小学校教師退職後、教育実践研究者として講演、執筆など多方面に活躍中。

主な著書 『学級崩壊立て直し請負人』『菊池省三流 奇跡の学級づくり』

#### ・重松 清 氏（作家）

1963年生まれ、岡山県出身。早稲田大学教育学部卒。出版社勤務をへて著述業に。

2016年早稲田大学文化構想学部で任期付き教授に就任。

直木賞はじめ受賞多数。

「いのち」や「家族」をテーマにした作品が多く、教科書への採用や映画化・テレビドラマ化されている作品も多い。

主な映画化作品 『ステップ』『疾走』『きみの友だち』『その日のまえに』

主なテレビドラマ化作品 『とんび』『流星ワゴン』『ビタミンF』

主な教科書採用作品 『カレーライス』『卒業ホームラン』『タオル』

#### ・津村 記久子 氏（作家）

1978年生まれ、大阪市出身。

主に大阪を舞台に、現代人の働くこと、生活すること、成長することをユーモアを交えながら描き出す。

大阪府茨木市主催「川端康成青春文学賞」選考委員

2005年『マンイーター』（のちに『君は永遠にそいつらより若い』に改題）で太宰治賞を受賞し、デビュー。

2008年『ミュージック・ブレス・ユー!!』で野間文芸新人賞

2009年『ポトスライムの舟』で芥川賞

2013年『給水塔と亀』で川端康成文学賞

2017年『浮遊霊ブラジル』で紫式部文学賞

2023年『水車小屋のネネ』で谷崎潤一郎賞

③ J R 西日本あんしん社会財団

理 事 長 来島 達夫 (西日本旅客鉄道株式会社 顧問)

常務理事 梅谷 泰郎 (西日本旅客鉄道株式会社 常務執行役員)